

中学校第1学年音楽科学習指導案

1 題材名 4小節で表そう！富士町の魅力

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編の第1学年「A表現」「(3)ア創作表現の創意工夫」、「(3)イ(ア)音のつながり方の特徴」及び「(3)ウ課題や条件に沿った音の選択や組合せ」をねらいとしている。

本題材は、音のつながり方の特徴を生かした旋律を創作する題材である。既習の歌唱曲やリズムを用いて旋律を創作するため、既習事項と結び付けて学習することができる。また、旋律を創作する条件として、拍子（4分の4拍子）、小節数（4小節）、和音の動き（I-IV-V-I）を示すため、初めて旋律を創作する生徒にとって取り組みやすい教材である。これまでの表現及び鑑賞の学習において旋律から感受していたことは、「順次進行」や「跳躍進行」などの旋律の動きによって生み出されていることを知覚し、更にリズム、速度と合わせてそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものとに関わりについて考えることを通して、創作表現を創意工夫しながら実際に創作の学習活動に生かす力を身に付けることができると考える。自分の表したい音楽と音素材を関わらせて学習していくため、主体的な表現活動が期待できる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、表現、鑑賞のどちらの領域においても意欲的に取り組むことができる。また、級友の意見や考えに興味があり、自分の考えと比較しながら理解を深めることができる。1学期に行ったリズム創作の授業では、音符と休符を組み合わせ、創意工夫を生かしたリズムを創作することができ、級友がつくったリズムから、音楽的特徴を感じ取ることもできていた。表現や鑑賞の授業を通して、音色、リズム、速度、強弱の音楽を形づくっている要素によって生み出される雰囲気を感じすることはできたが、旋律について知覚・感受することができる生徒は少なかった。

9月に「なぜ、音楽を学ぶのだろうか」というアンケートを実施した。その結果によると、「音楽の学習は好きですか」という質問に対し約67%の生徒が「そう思う」、約33%の生徒が「どちらかと言えばそう思う」と回答しているため、学級全員が音楽の学習に対して前向きである。「音楽の学習の中で、どの分野が得意ですか」という質問に対しては、約89%の生徒が「歌唱」「器楽」と回答しており、「創作」を選んだ生徒は約11%であった。

したがって、本題材では、自分で旋律を創作する学習活動を通して、旋律の動きがもたらす雰囲気や特質を感じ取ることができる生徒を育成したい。

(3) 指導観

指導に当たっては、音と音がつながって旋律となっていく過程を重視し、音素材によって音楽の雰囲気が変わることを感じさせながら創作できるようにする。そのために、既習曲や生活音から音のつながり方の特徴を感じ取ることができるような活動を設定する。その後、個人→グループ→個人→一斉という学習形態を設定する。グループで課題探究のための話し合い活動を行い、その後も一度個人の学習形態に戻すことで、自分自身の作品を吟味し、更に追究して自分の表したい音楽を創作できるようにする。

旋律創作のテーマは「富士町」と設定した。生徒たちは総合的な学習の時間を通して富士町の魅力を感じているため、「富士町」をテーマにすることで表したい音楽のイメージをより豊かにもつことができると考える。また、1人1台端末を活用し、音のつながり方を即興的あるいは感覚的に試しながら創作できる学習者用デジタルコンテンツを用いて創作活動を行う。この学習者用デジタルコンテンツを用いることで、記譜や演奏することに苦手意識のある生徒も様々な音のつながり方を試しながら学習することができると思う。

3 題材の目標

- (1) 音のつながり方の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) 音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。
- (3) 音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくることに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。	思 リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態 音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくることに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導と評価の計画（全4時間）

時	◆学習のねらい ○学習内容 ・学習活動	評価			評価方法
		知技	思	態	
1	◆音のつながり方の特徴を理解し、富士町の魅力を表す旋律を創作することに関心をもち。 ○既習教材や身近な音楽を用いて、旋律（音のつながり方）に関心をもち。 ・音のつながり方の特徴を知る。 ・音のつながり方の違いにより感受したことについて発表し、ワークシートに記入する。 ○本題材の見通しをもつ。 ○富士町の魅力について考え、つくりたい旋律のイメージをもつ。 ・富士町の魅力からイメージする音や音のつながり方などについてワークシートに記入する。				
2	◆音のつながり方の特徴について理解するとともに、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。 ○旋律創作の課題や条件を知る。 ○表したいイメージを基に、1人1台端末を活用して旋律を創作する。 ・イメージ（富士町）に合う音楽表現を考えて4小節のリズムを創作する。 ・創作したリズムを基に、音のつながり方を考えて旋律を創作する。				
3 本時	○個人で旋律創作をする。 ・音のつながり方を工夫しながら、イメージに合う4小節の旋律を創作する。 ○グループで中間発表する。 ・グループでお互いに創作した旋律を聴き合い、意見交流を行う。 ・グループでの意見を基に、自分の旋律を見直す。	↓ 知	↓ 思		観察 ワークシート
4	◆創作した作品を紹介し合い、そのよさを学級で共有するとともに、旋律創作の楽しさや喜びを実感する。 ○学級で作品を発表する。 ・創作した旋律で表したいイメージや創作表現の創意工夫を紹介する。 ・お互いの作品のよさを伝え合う。 ○本題材の学習を振り返る。	技		↓ 態	発表（観察） ワークシート 作品

6 本時の展開（3／4時間目）

(1) 本時の目標

音のつながり方の特徴について理解するとともに、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・ 学習活動	形態	・ 指導上の留意点	■評価規準 (評価方法)
導入	○前時の学習を振り返る。 ・前時に創作したリズムや旋律を確認する。 ○めあてを確認する。	斉	・前時の生徒の振り返りを提示しながら、振り返ることができるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【めあて】 音のつながり方を工夫して、富士町の魅力を4小節で表そう。 </div>				
展開	○教師の創作した旋律を聴く。 ・音のつながり方の違いによる特徴を感じ取り、発表する。 ・教師が創作した旋律の工夫点について、気付いたことや感じたことを発表する。 ○旋律を創作する。 ・1人1台端末を活用して、個人で旋律をつくる。 ・工夫した点をワークシートに記入する。 ○つくった旋律を中間発表する。 ・グループで互いに創作した旋律を聴き合い、意見交流を行う。 ・グループでの意見を基に、自分の旋律を見直す。	斉 個 G	・教師が創作した旋律を提示し、旋律（音のつながり方）に着目して聴くように伝える。 ・教師が創作した旋律の工夫点について、音のつながり方、他、リズムと速度について説明する。 ・生徒が表現したい音楽になっているかについて確認する。 ・ワークシートに工夫点をメモするように伝える。 ・表したいイメージや音のつながり方の工夫点などを説明しながら発表するように伝える。 ・他者の考えでよいと思ったことは、ワークシートの青色で加筆するように伝える。	■ 知 音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。 (観察, ワークシート) ■ 思 リズム, 速度, 旋律を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 (観察, ワークシート)
まとめ	○本時の学習を振り返る。	個 斉	・振り返りシートに記入するように伝える。 ・次回, 発表会を行うことを伝える。	